

クリティカルシンキング は終わらない

20世紀末に本格的に日本に入ってきたクリティカルシンキングの概念ですが、なぜか、その後10年ほどであまり耳にする機会がなくなっています。看護界においても同様で、一時は教育・管理の分野で注目を集めました。現在はあまり言及されることがありません。

ベナーやカルペニートら看護理論家たちは、最近の著書でもその重要性を認めていますし、日々「問題」を解決していかななくてはならない看護師にとって、クリティカルシンキングの重要性は増しこそすれ、減じているとは感じられません。なのに、この状況はどうなのでしょう？

今回の特集は、なぜクリティカルシンキングは最近人口に膾炙しないのかを考えたい。看護および教育における重要性を改めて認識していただくことを目的に組まれるものです。読者の皆さんに、日々の現場にクリティカルシンキングを取り入れていただくために、具体的な教育への取り組みも多く紹介します。

クリティカルシンキングは、教員・学生に関係なく、今を生きる人間にとって必須であることを再認識していただければと願っています。